

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：鎌田陽子
(出雲市立神戸川小学校)

編集：広報部

VOL.53 2015.3.3 (雛祭号)

発行責任者 蘿 恵 (川本小学校)

島事研ホームページ

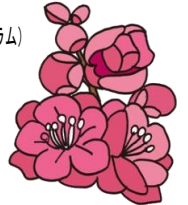
<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 協働的、創造的な事務グループの取組を
(島根県教育センター所長 春日仁史)
- ▶ 江津市学校事務グループの取組
- ▶ 学校事務セミナー参加者の感想
- ▶ 人権コーナー
- ▶ 研修あれこれ(学校マネジメントフォーラム)
- ▶ 事務歳時記(最終回)
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



協働的、創造的な 事務グループの 取組を

島根県教育センター所長 春日仁史

昨年度、島根県公立小中学校事務研究大会で、県内各地域の事務グループにおける協働的、創造的な実践発表を聞き、それぞれの組織のつながりの強さにとても感銘を受けました。と同時に、「なぜ、それぞれの事務グループにおいて組織が機能し、大きな成果を出す取組ができたのだろう」と考えるようになりました。自分なりの考えを今年度、訪問した県内小学校の取組を参考にまとめてみました。

訪問するきっかけは複数の指導主事が異口同音に学校の雰囲気の良い、前向きで研究熱心な教職員の姿勢を評価する報告を受けたことからです。この学校では普段から職員室でみんなが遠慮なく、オープンに語り合い、困り事があれば、「こうしてみたらどうだろうか。自分だったらこうするなあ。」と我が事として話し合うそうです。同行した指導主事はほのぼのとした職員室の雰囲気から「家族的な職員集団」と表しました。家族だからこそ、隠さず、親身になって話し合う。みんなで汗を流す。開放的で協働的な教職員集団、同僚性の高さを感じる秘訣は、「教職員ポートフォリオ」という手法で、全教職員がそれぞれの決めた今年1年のビジョンや取組状況を報告し合っていることにあるように思います。個人の目標を全教職員で共有することで、自然にそれぞれの目標達成を支援し合っているということでした。

筑波大学の浜田博文氏は「組織の中のあらゆる人々の個人的ビジョンと結びついていることによって初めて『共有ビジョン』になり得る」とし、「共有ビジョン」を形成するにはメンバーの双方向のコミュニケーションが不可欠であることを著書「学校を変える力」に記しています。この浜田氏の考えに基づいて、実践発表された事務グループと訪問した学校を見ると、「こうありたい。」「こうしたい。」「こうなるといい。」といった個人の願いを丁寧に聴き合うことが大切にされる点が共通であるように考えます。組織の共有ビジョンと個人のビジョンを結びつける過程があつてこそ、協働して解決していく意識は高揚され、一人一人が貢献意欲をもって取り組み、成果がでてくるのではないかと考えます。

各事務グループにおいては、日頃から個々の課題に丁寧に対応される一方、グループにおける課題の解決のために多様なコミュニケーションがされていると思います。だからこそ、実践発表にあるような成果が上げられたのではないかと思います。このような真摯な取組をいただいている事務職員の皆さんに心から敬意を表します。そして、今後ますます、県内各地域において協働的、創造的な事務グループの取組が推進されますことを期待しています。

江津市こうつ学校事務グループ の取組紹介



江津市PRキャラクター

「人麻呂くとよさみ姫」

江津市では、平成23年6月28日に「江津市学校事務グループ運営要綱」
「江津市学校事務グループ推進協議会」が施行されました。

「故郷(ふるさと)に誇りを持ち、心豊かに、はばたけ未来へ」の江津の教育方針に示される教育目標に基づき、本年度は津宮小学校で事務グループ活動充実のための加配がありました。事務グループは、特色ある学校づくりの推進や教育の質を高める基盤となる事務・業務の効率化・適正化及び事務職員の資質向上を目指し編成したものです。江津市には、西部・中部・東部の3つのグループがあり、学校の規模、事務職員の配置の実態等、各グループに応じた取組や研修計画を行い活動をしています。

平成26年度の事務グループ活動

東部グループ

桜江小学校
桜江中学校
江津東小学校
江東中学校

- ・江津市事務だより発行
- ・若年経験者の研修
- ・小中連携強化

中部グループ

高角小学校
渡津小学校
郷田小学校
江津中学校

- ・備品管理事務の見直し
- ・就学援助事務

西部グループ

津宮小学校
川波小学校
跡市小学校(未配置校)
青陵中学校

- ・研修会企画・運営
- ・就学援助事務統一化
- ・事務職員未配置校支援

校種別に情報交換を行う

小学校部会

中学校部会

— 江津市事務グループ活動の目標 —

- ① 事務グループ活動についての共通理解，協力体制の確立を図る。
- ② 市内全学校の学校事務領域に対して組織で取り組み，教育活動の支援をめざす。
- ③ 学校運営に積極的に関わり，学校運営組織の活性化（校務分掌の見直し），学校教育活動の充実となるよう取り組む。
- ④ 学校事務の標準化，適正化，効率化を図り，学校運営に寄与する。
- ⑤ 関係機関と連携を図り，教育環境整備を行う。

江津市教育委員会 参事 森岡 眞寿美

教育委員会の声

江津市には、小学校8校、中学校4校の学校があり、12名の事務職員の方がおられます。

3つのグループは、月2回程度（1回は合同）活動を行っており、それぞれの学校で抱える課題等について情報交換し、現状についての共通理解を図っています。要請があれば、教育委員会からも派遣指導主事や職員が参加する等、随時連携を深めています。こういった事務グループの活動が実務的な研修の場になっており、事務職員の資質向上や事務の標準化の確立につながっています。

学校運営の中核を担い、地域・保護者と連携し、教育活動を主体的に支えているのが学校事務職員であり、事務グループの積極的な活動が、さらなる教育の向上・充実につながると考えています。教育委員会としましても、学校事務の効率化・合理化に向けて環境整備を図らなければなりません、十分な整備ができていないのが現状です。学校事務職員の皆さんと連携を深め、学校関係者の共通理解のもと、事務の効率化に向けた取組を進めていく必要があると考えています。



江津市校長会長 田中 康夫

管理職の声

～ 事務グループ活動の充実発展を願って ～

江津市では、平成20年度から始まった学校事務共同実施の加配事業施行により、現在のグループ活動へと活動が発展してきました。

当時実施された西部地域では、グループ内での相互協力体制作り、学校間のネットワーク化、学校財政システムの活用と事務の効率化等をめざして学校事務グループ活動がスタートしました。

現在学校における事務量は年々増加・多様化しており、情報システムの構築に伴う事務処理の効率化や適正・平準化が加速する一方、学級担任の事務処理への負担感は一層深刻化しています。こうした中、グループ毎の相互連携による協力体制の構築、活動の充実をめざすことで個々の資質向上と事務機能の向上を図ることは、市内小中学校の学校運営の円滑化や、教育の質の高まりにもつながり、その意義は大きいものだと思います。

今年度も全体会も含めると15回程度のグループ会を開きました。内容も会場校の管理職からの講話等、広く識見を高め、教職員の一人としての心構えや学校経営への参画のあり方などを学ぶ機会にもなっています。

社会変化に伴い学校を取り巻く環境が年々厳しくなっている中、学校が抱える課題は多岐にわたっています。このため、課題解決のために教職員がそれぞれの役割を自覚し、責任を確実に果たすと共に、学校運営が円滑に進むよう全員で連携・協力していくことがますます重要となってきています。そうした中で、グループ活動により事務職員の皆さんが学校運営での役割を前向きに受け止め、教職員の一人として積極的に働きかけてもらえることは、他の職員にとっても大きな刺激になっています。今後も組織全体の益々の活性化と、一人一人の活躍を大いに期待しています。

第11回 島根県 学校事務セミナー

期日:1月30日

会場:パルメイト出雲

参加者の感想

- 行政説明 島根県教育委員会
 - 総会 島事研ビジョン・第五次研究中期計画
 - 講義 「学びの質を高める学校事務職員」
- 講師: 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部 総括研究官 藤原文雄 様

島事研ビジョン2015 (案)

島事研のミッション

島根の未来を切り拓く子どもたちの豊かな育ちを支援する

学校事務職員に求められる役割とめざす姿

学校力向上につながる学びの環境をデザインする学校事務職員

島事研の目標

「学校力向上につながる学びの環境をデザインする学校事務職員」をめざした諸条件の整備

第五次研究中期計画にあった、研究の方法の課題解決のための共通視点「前向きな世代交代」このキーワードが特に印象に残りました。

島根県のみではなく全国規模で見ても今後の課題となってくると思います。世代交代をマイナスで考えるのではなく、指導育成の中で教えられる側の成長や教える側の資質向上、達成感を大切に今後の活動を行っていききたいです。

(隠岐管内 西ノ島町立西ノ島中学校 吉田 保)

これまで、島事研と益田市は地理的には勿論、それ以上に意思疎通が不十分だったためか、研究のつながりも遠く感じていたが、新しい研究中期計画を進めるに当たり、「チーム学校」における学校事務職員としての貢献等が教示されたことで、市及び個人での研究テーマに沿った取組が少しでもイメージできたような気がする。

(益田管内 益田市立中西中学校 田原 弘志)

「好奇心をデザインするセミナー」

「デザイン」。新しい単語が示されました。島事研ビジョン2015を見ると、どうやら英語ではなく教育用語のようです。藤原文雄氏の講演では「デザイナー」。「er」がついています。どう違うのでしょうか。これからが楽しみです。

(出雲管内 雲南市立海潮小学校 堀江 恵一)

ミシンの授業を例に事務職員の貢献の仕方について考える機会があったが、数えるほどしか挙がらず自分自身の「レンズ」の少なさを実感した。学びの質を高める事務職員を目指すべく、「レンズ」を増やして学校運営事務領域における業務をひろげることを意識するとともに、自分の武器となるべきものを探っていきたくと思った。

(出雲管内 奥出雲町立阿井小学校 堂端 昌志)

藤原先生が講義で言われた学校事務職員の貢献の仕方7つの領域の中、振り返ると自分はまだ3つくらいしか携わっていないのではと思いました。学びを支え、質を高める学校事務職員となるために、危機管理や戦略等領域を増やし、学校にいる行政職としての専門性を高める努力をしていくことの大切さを感じました。

年に1度ですが、セミナーに参加させてもらい今の自分の課題を明確にさせていただく機会となっています。ありがとうございました。

(松江管内 松江市立古志原小学校 高田 久美子)

島根県学校事務セミナーのご盛会をお喜び申し上げますとともに、第五次島事研ビジョンを迎えられることに敬意を表します。会場には、元気な若手の多いこと、熱気にあふれていることに驚き、県外から参加した私にとっても、とても居心地の良い空間でした。

そして、会長さんたち研究部長さんの熱意あふれる説明、「自分が何のために仕事をしているのか。学校や地域によって実態に違いはある。過程は違うが、ゴールには児童生徒の姿がある。」という言葉に、大いに賛同し、岡山でも同じように頑張りたいと思った大会でした。ありがとうございました。

(岡山県苫田郡鏡野町立鶴喜小学校 事務副参事 大天 真由美)

人権 コーナー

「ありがとう」の言葉に支えられて

川本町立川本中学校 福井 義信



私たち学校事務職員の仕事は直接子どもたちを指導することはありませんが、それ以外のところで子どもたちのために頑張らなければならないところはたくさんあります。皆さんはそれぞれに、様々な分野で自らの能力を発揮し、活躍しておられることと思います。私はといえば、自称「福井工務店」を開店し、大工、電気工事、水道工事と校舎内の様々な修理や施設改善に力を入れてきました。子どもたちや先生たちのために教育環境整備に時間を割くことは、自らを忙しくし他の業務が滞り苦しむ結果になることもあります。しかし、自分の持てる精一杯のところを尽くした後、皆さんからいただく「ありがとう」の言葉は、得も言われぬ心地よさを味わわせてくれます。そして、また頑張ろうと力が湧いてきます。

「ありがとう」の反対の言葉は「当たり前」だと聞いたことがあります。してもらったことが当たり前だと思えば「ありがとう」の言葉は出てこないでしょう。職場の中で、互いに自分のできる精一杯を尽くす。そしてそれを認め合い讃えあう中には、モラルハラスメントやパワーハラスメントは決して生まれてこないのではないのでしょうか。「ありがとう」の言葉が交わされる場所には、互いが互いを認め合う心地よさがあります。そして「感謝の心」に溢れる職場環境が生まれます。

私は、37年間の学校勤務で様々な人にお世話になりました。今、思うと本当に多くの方に支えられながら勤めてきた37年間であったと実感します。学校ではもちろんのこと、広報部の部長として「爽」の編集に携わった7年間も、多くの会員の皆さんにお世話になりました。ご協力をいただいたことに心から感謝しています。



しかしながら、私自身を振り返ってみると、私を支えてくださったたくさんの方々に、素直に「ありがとう」と言えていなかったように思います。本当はたくさん「感謝の心」を伝えなければならないのに。

「37年間、本当にありがとうございました。」

研修 あれこれ

研修会（学校マネジメントフォーラム）に参加して

大田市立第二中学校 立脇 渉

今年度の学校マネジメントフォーラムに参加しました。

11月の第1週は、財務ウイークとしての活動が設定されています。この時期に全事研が文科省を巻き込んで始まったのが財務マネジメントを中心とした研修会だったと思います。現在は広く学校マネジメントフォーラムとしての開催となっています。

このフォーラムでは、県、市町の実践発表があり参考になります。今回は、鳥取県の倉吉市の取組の発表がありました。地理的にも内容的にも非常に身近な実践としてとても参考になりました。大田市として視察を含めて、今後交流ができれば事務グループ活動に活かせると感じました。そして、もう少し頑張っ全国レベルのフォーラム等で実践発表ができるといいですね。これは、県内の市町村の事務研、事務グループの皆さんへのメッセージです。

研修会への参加の目的には、講演等講師との出会いということがあります。島根で、大田で話をしてもらおうことができるのかな？。内容と日程と経費面から可能かな？。こうした視点での参加も立場的には重要な部分でした。全国レベル、中国ブロックの大会、研修会はできるだけ都合を付けて参加しました。中国地方ですと主催者をお願いして講師の先生と直接話をさせてもらったり、いろいろな方法でコンタクトをとっていました。島根にいるだけではなかなか旬な情報が入ってこないですね。

しかし、関東での研修会となると飛行機利用が通常の経路です。飛行機のトラブルには、結構遭遇しています。出雲が強い雨で欠航、雪で降りられなくて岡山に到着とか、部品の交換での遅れ、濃霧で羽田上空での待機から名古屋まで引き返し、待機してから羽田到着。いろいろと体験しましたが覚悟を決めて信頼して乗るしかないですね。

こうしたたくさんの方々の経験、出会いを思い出として退くことに感謝しています。本当にありがとうございました。



事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

初雪や 外を見る児の 叱られて

最近初雪がだんだんと遅くなってきた。昔は、十一月の終わるか十二月の初めには少なくとも一度くらいは降っていたが、今は冬休みになるまで雪の降らないことがある。授業中に初雪がちらほら、よそ見をしていたら叱られた。

雪景色 すぐに混ざりぬ 小学生

登校してきたら校庭に雪が積もっていた。昇降口が開くまでの時間、小学生は校庭を走り回っている。中には雪だるまを作ったり、かまくららしきものを作ったりしている。さすが子どもは風の子、しかし大人は火の子である。

着ぶくれて 登校の列 はみ出たり

最近ではジャンパーはウインドブレーカー、綿入れなどはダウンジャケットに代わっている。防寒具も進歩したものであるが、冬がそれほど寒くなくなってきたかもしれない。集団登校の児童たち、しっかり着こんで歩いている。

こだわって こだわり続け 退職す



1978年4月2日三隅町立井野中学校勤務を命ずる。その後6校を経験して、久屋小学校で学校事務職員を終わる。そのこだわりとは何だったのか。未だに事務職員像が見えなくて...



事務歳時記

最終回

森山さんよりメッセージをいただきました

1997年12月当時の『事務局だより』が魅力ないとして広報『爽』が発行された。その事務局だよりを作っていたのが私で、まあ「何人かで作れば誰だって広報は作れるさ」と本当は『爽』に嫌悪感を抱いていたものである。その後の広報部長からお声がかかり、今日まで「事務歳時記」をコラムとして載せていただいた。趣味の一端を、島事研の事業の一部の中に載せていいのだろうかとも思ったが、まあ固いものばかりでなくこんなものもいいのかなど。できれば『爽』がある間はと思ったが、それは別のところで考えたい。「古い水夫もやがて新しい海へ出る」その時である。ありがとうございました。

【編集後記】先日、ミュージカル『ジーザス・クライスト＝スーパースター』を観劇しました。イエス＝キリスト最期の7日間を描いた作品で、登場人物の一人に聖書の中で裏切り者として有名なユダが出て来ます。しかし、劇中では私たちの知らないユダがそこにいました。劇中ではキリストを敬愛するが故に裏切った姿に、「ユダ＝悪」と思っていた私は「そういう見方もあるのか」と強い衝撃を受けました。私たちが接する子どもたちも、様々な面があります。表に出ている面だけで判断せず、子どもたちの色々な面を見ていきたいと思えます。(M・K)

